

鳥取県湯梨浜町で得られた発光ミミズについて（予報）

一澤 圭

〒 680-0011 鳥取市東町 2-124 鳥取県立博物館

E-mail: ichisawak@pref.tottori.jp

A preliminary report on the luminous earthworm (Annelida: Oligochaeta) collected from Yurihama-cho, Tottori, Japan

Kei ICHISAWA

Tottori Prefectural Museum, Higashi-machi 2-124, Tottori, 680-0011 Japan

はじめに

ミミズ類は、環形動物門貧毛綱に属する動物で、その多くは落葉層や土壤中に生息している。腐植等を摂食・排泄することで、有機物の分解や土壌の耕耘に貢献し、陸上生態系において重要な役割を果たしている。古くから釣り餌に用いられているほか、農業等に活用されるなど、人間にとってもなじみの深い動物であるが、その分類や生態については不明な部分が多い。

2004年11月、光るミミズが採集されたとの情報が寄せられ、計4個体の生体が鳥取県立博物館に届けられた。光を放つミミズとしては、国内では、ホタルミミズ *Microscolex phosphoreus* (Dugés, 1837)、イソミミズ *Pontodrilus litoralis* (Grube, 1855)、シマミミズ *Eisenia tetida* (Savigny, 1826)などが知られている(渡辺, 2003)。今回得られた標本については、種名は未確定であるものの、発光するミミズの確かな記録としては鳥取県内で初めてのものになると思われるため、ここに報告しておく。

採集記録

これまでに得られた4個体について、以下に採集記録を記す。記載は、採集個体数：採集地、環境、採集年月日、採集者氏名の順である。

1個体：鳥取県東伯郡湯梨浜町門田、コンクリート上、2004.11.12、小谷哲夫。1個体：鳥取県東伯郡湯梨浜町門田、マサ土上、2004.11.13、小谷哲夫。2個体：鳥取県東伯郡湯梨浜町門田、マサ土上、2004.11.15、小谷哲夫。

現地での状況等

発見・採集者の小谷氏によれば、数年前から光る生き物の存在には気づいており、これまでに、湯梨浜町の門田地区および松崎地区の複数箇所において、同様の光を観察したとのことである。また、2月頃の月が出て底冷えのする早朝には、比較的高頻度で観察されるとのことである。

形態等

生体はややピンク色がかった半透明で、腸管内容物が透けているのが観察できる(写真1)。夜、暗くした室内で、針で刺激を与えてみたところ、光を放つ様子が確認できた(写真2)。体そのものが光るのではなく、放出した体液が光っていることがわかる。

2004年11月15日に採集されたうちの1個体を、80%エタノール溶液にて液浸標本とし、形態を観察した。体長約4.5cm、体幅約1mm。剛毛は1体節に4対8本が配置されるルンブリクス型配列を示し、環帯は環状で、第13～17体節を占めていた。全体節数は71。背孔は確認できなかった。

以上の特徴から、本個体はムカシフトミミズ科のホタルミミズである可能性が高いと考えられるが、詳細は専門家による鑑定を待ちたい。

謝辞

発光ミミズを発見・採集された湯梨浜町の小谷哲夫氏には、現地での状況等の貴重な情報とともに標本を提供していただいた。倉吉市の國本洸紀氏、倉吉市立上灘小学校の田村昭夫氏には、湯梨浜町での発見について情報提供いただき、標本の提供にもご協力いただ

いた。鎌倉市の柴田康平氏には、ホタルミミズの国内での記録について有益なご助言をいただいた。成蹊中学・高等学校の石塚小太郎氏には、ホタルミミズの分類学的形質に関してご教示いただいた。以上の方々に深く感謝の意を表す。

引用文献

渡辺弘之(2003) ミミズ 嫌われもののはたらきもの. 東海大学出版会, 東京. 143 pp.



写真 1. 湯梨浜町で得られた発光ミミズ

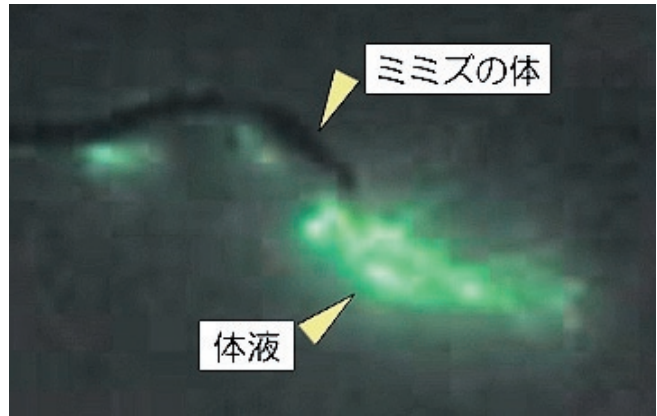


写真 2. 光る体液を放出しているところ